



サン・ジャン・ピエド・ポール
中心部地図

Routes :	Chemins :	- Juan de Huarte G4
- Arnéguy F2-F3	- Bergers C4-C5	- Floquet G5
- Caro E10	- Citadelle E6-E7	- Trinquet E6-D6
- Napoléon I6	- Eglise F5-F6	
- Saint-Michel I7	- Espagne G6	Avenues :
- Uhart F2	- France E6	- Fronton G7
	- Jacques Lemoine A4	- Jai-Alai A7-C7
	- Liberté G6	- Renaud C4-D4
Rues :	- 11 Novembre B4-B6	
- Cimetière D8-D9	- Poste D4	Portes :
- Citadelle E10-F10	- Sainte-Eulalie D5-C6	- Echauguette F7
- Eyheraberry H8	- Sauveur Haramburu A5-	- Espagne H6
- Mayorga I5	A6	- France E6
- Nasse C8	- Ugance D2-D3	- Navarre F5
- Olhonce I9	- Uhart G5	- Notre-Dame F6
- Sainte-Eulalie E3-E4		- Saint-Jacques E7
- Saint-Jacques E9		- Uhart G4
- Taillapalde D10	Places :	
- Zalikarte B5-B6	- Général de Gaulle F5	

- 地図内の番号解説**
- ① 町役場 (町庁舎)
 - ② ナヴァールの門
 - ③ ノートル・ダムの門
 - ④ ノートル・ダム・デュ・ブ・デュ・ボン教会
 - ⑤ メゾン・ララビュール (n° 7)
 - ⑥ フランスの門
 - ⑦ メゾン・アルカンソラ (N° 32)
 - ⑧ “司教”の監獄
 - ⑨ 聖ヤコブの門
 - ⑩ 巡視路
 - ⑪ 城砦
 - ⑫ 見晴らし台
 - ⑬ エイヘラベリー橋
 - ⑭ スペインの門
 - ⑮ ナヴァール州の会館
 - 巡礼者受入れ事務所 (n° 39)
 - 🔍 観光局
 - P パーキング

観光局

サン・ジャン・ピエ・ド・ポールの町の魅力を発見しましょう

Donibane Garaziko Miria Ezagutzen

12世紀終盤にナヴァール国王の命により建設されて以来、サン・ジャン・ピエ・ド・ポールは王国のピレネー山脈北斜面において最も重要な町として栄えました。シズ峠の麓にあり、ロンスポーを経由してピレネー山脈を越える主要道路沿いという理想的な立地条件を満たしているサン・ジャン・ピエ・ド・ポールは、要塞としての輝かしい機能を果たし、駐屯地でありながら、コンポステラへの巡礼の要所でもあるという文化と商業の交差点としての役割も担っています。また、ニエヴ川の合流地点で、バスク地方のあらゆる方面へと通じる道の分岐点でもあります。(スペイン国境まで10分、バイヨンまで40分、パンブローナまで1時間15分、ポーまで1時間30分)この魅力溢れる町の豊かな歴史の遺産やガストロノミー、祭り、牧歌的風景、そして躍動感と生きたアートを存分にお楽しみください。

1 メゾン・マンサール：

18世紀初期に建築され、当時綿の卸売商人ダビッド・ド・フレ氏の所有地でした。均齊のとれた美しいファサードが独特な魅力を放っています。マンサード屋根(二重勾配屋根)が使われているところから、その名がつけられました。1935年に町役場が設置され、現在に至っています。

2 ナヴァールの門：

中世の城壁の一部を突き破って建設された門で、その独特な特徴である美しいアーチとオジーヴ穹窿のアーケードは現在まで保持されています。この門は、中世の市場跡である教会の前の小さな広場に続いています。当時は、商品を運ぼうとする輓付二輪荷馬車が通り抜けるのもやっとのことだったでしょう。

3 ノートルダム門：

スペイン通り境界、ニエヴ川に架かる古い橋の正面に位置しています。門の上部にある聖ジャン・バプティストと聖母子像が優しく見守られていることを物語っています。

4 ノートルダム・デュ・ブ・テュ・ボン教会：

フランスバスク地方ゴシック最高建築にあげられるバイヨン大聖堂の次に重要な教会としてあげられます。ナバーラ王サンチョ7世は、伝統に従い、1212年のナバス・デ・トロサの戦いにおけるムーア人への勝利を記念してこの教会を作らせました。石積み土台部分に石切り職人によって刻まれた文字から、13世紀初期の建築物と考えられています。教会内部は、広々とした中央の身廊と両側の側廊からなる広間、そして19世紀に改修された2階建てのトリビューン(階上席)からなっており、数々の柱で支えられてすっきりとした調和をなしています。多角形の内陣の両側には、2つの曲線三角形の窓があり、町とナバーラ王国の紋章が刻まれています。カヴァイエ=コルシ製のオルガンは、近年改修されて、ミサの際に演奏されています。

5 メゾン・ララビュール：

シダテル通り7番地にあるこの建物は、かつてサン・ジャン・ピエ・ド・ポールの司祭館でした。現在は一階広間を展示場として公開しています。文化遺産からアートまで様々なテーマで繰り広げられる展示品を見学しに是非お越しください！

6 フランスの門：

フランス方面に向かって建っていることから、その名がつけられたと考えられています。

シダテル通り：

中世の要塞都市の面影を残しており、坂道に家々がつながって建てられています。ファサードには、近隣のアラドイ山からとれるピンク色の砂岩が多く使われており、色合いの異なる砂岩を交互に使っている家々もところどころに見られます。また、その他の特徴としてあげられるのが張出し部、木骨の柱、細工の施された小梁が突き出ている軒などです。まぐさには幾何学模様や宗教的なシンボルで装飾された表情豊かな文字が刻まれています。

7 メゾン・アルカンソラ：

最古の碑銘、「AÑO1510」(紀元前1510年)と刻まれた見事な建造物の階上壁面には、木骨の柱の間を埋めるように楕形にレンガが並べられています。1531年、後に福者の称号を与えられたジャン・ド・マヨルガ氏がここで誕生しました。マヨルガ氏は、イエズス会の修道士で、カナリア諸島沖でカルヴァン派の海賊に襲われて、殉死しました。軒を支えている梁の一つに飾られた小さな白い十字架が、故人を偲ばせます。

8 司教の監獄：

司教の監獄とメゾン・ラポルデ(聖ヤコブの道への巡礼者受入れ事務所)の間にある庭が、2つの建物を区切っています。司教の監獄は、その一風変わった歴史から町のシンボルとなっています。ローマ教会の聖教分離(14世紀終盤~15世紀初期)の際、バイヨン司教区の司教がここに滞在していたこと、18世紀終盤から監獄として機能していたことという2つの異なる歴史的事実によって、近年になって「司教の監獄」と呼ばれるようになりました。今日残っている建物は一風変わっています。入り口ホールは石張りになっており、看守室に通じています。続いて広々とした光の溢れる懲戒房があります。狭い階段を下りるとオジーヴ穹窿のアーチ形の天井がある中世の広い地下室に出ます。ここは商品の倉庫として使われていたという説が有力です。今日、この監獄は、聖ヤコブの道の巡礼者とともに中世へと私たちをタイムスリップさせてくれる…そんな神秘的な場所と言えるかもしれません。4月3日~11月1日開館。見学自由。開館時間:毎日11時~12時30分、14時30分~18時30分(ただし、火曜定休)7月、8月の開館時間:10時30分~19時まで終日開館

料金:15歳以上 3ユーロ / 15歳未満 無料

9 聖ヤコブの門：

1998年、ユネスコの世界文化遺産に指定。この門は、サン・ジャン・ル・ヴューのマドレーヌ界隈からサン・ジャン・ピエ・ド・ポールを通過してロンスポー方面へ向かい、コンポステラを目指す巡礼者たちのたどってきた歴史の入り口という役割を果たしています。ここからはアラドイ山の美しい丘をのぞむことができます。かつては石切場でしたが、現在ではイルレギーという銘柄のワインを生産するぶどう畑が広がっています。また、立派なスポーツ施設が目に入るはず。セスタブタ(バスクのペロタ)競技が行われるハイ・アライと呼ばれる大きな建物の前には、医哲学の先駆者であるドクターユアン・ヒュアルテの浅浮彫りが飾られています。彼は、モンテスキューの「法の精神」の中に引用された有名な書物の著者でもありました。

10 巡視路：

昨今の改修作業によって、ナヴァールの門から聖ヤコブの門まで中世の城壁をつたって歩くことができるようになったため、サン・ジャン・ピエ・ド・ポールの要塞を護衛していた兵士たちの足跡をたどることができます。城壁の銃眼、物見台、銃眼付きやぐら、石落としては、町の軍事的な歴史と要塞化された遺産を探検する過去への旅に案内してくれます。お子様から大人まで楽しめる高台の散歩道です！

石畳通り：

かつて、騎士、歩行者は聖ヤコブの門付近にあるこの道を通って城壁へ向かいました。よく見ると敷石が傾いているのが分かりますが、これは曲がりくねった急な坂道を大股で駆けつけた馬のひずめの支えになるようにあえて斜めに置かれているのです。

11 城砦：

70m以上の高さから町を見下ろす城砦はマンティグレンの丘の頂上にあります。1625年~1627年頃建設され、1640年から10年間におわたって改修されました。この城砦はヴォーバン建築の先駆者である建築家たちが設計した防壁で囲まれた要塞の特例としてあげられます。1685年に城を訪れたヴォーバンは、後に改修を手がけました。扉や建物、地下道にヴォーバンの入念な配慮が施されています。

12 半月壁の見晴らし台：

方位盤が設置されており、ここからは素晴らしい谷間、山肌のパノラマをお楽しみいただけます。城のはね橋は小さな鐘楼のそびえる司令塔につながっており、巡視路の269段の階段を通して見晴らし台へとアクセスすることもできます。この巡視路は、ニエヴ川沿いの教会の後陣がある物見台の門に繋がっています。足元が不安な方は、逆側にある学生の通学路からアクセスするとよいでしょう。

学生の通学路：

2つの稜堡の間にある林の中の階段道。聖ヤコブの道に繋がっています。

13 エイヘラベリーの橋と遊歩道：

物見台の門を越えるとニエヴ川沿いには町の喧騒を離れた牧歌的な遊歩道が続いており、エイヘラベリーの広場へ出ます(バスク語で粉ひき小屋)。フランス革命時には愛国祭を祝い、野外劇場が開かれました。ニエヴ川上流にあたるベヘロビー・ニエヴ川の透き通った水中では、マスが楽しそうに踊っています。この川にはでこぼこしたアーチ形の石橋がかかっており、誤ってロマン橋と呼ばれることもあります。

14 スペインの門：

1840年代に建築された要塞の城壁の一部をなしているこの門は、ピレネー山脈を越える中世の偉大なる道へと続いています。後にナポレオン街道と呼ばれ、マレシャル・アリスブ通りと改められました。ピレネー山脈越えに挑む巡礼者はこの道を通って、ロンスポーで休憩をとり、その後7時間歩いてようやくコンポステラへとたどりつきます。

スペイン通り：

中世には要塞化されておらず、この境界は経済の中心としての役割を果たしていました。まぐさに刻まれている家主の職業からもうかがえるように、町の職人たちが集まっています。9番地には、1789年小麦の値段が高騰したと記載されていますが、これは当時の深刻な気かりの種でした。

15 ナバーラ州会館：

17世紀の広々とした家屋の入り口は半円形で、その上には「1610」と年号の刻まれた渦形装飾が施されています。ナバーラ州の代表者たちが集まり、重要な会合をしていたのです。討論し合う声が反響のよい壁を通して響き渡っていたことでしょう！ここでは生き生きとした情熱的な討論が交わされていたのです。

プチ・トラン(観光周遊ミニ列車)

音声ガイドつき。イースターから諸聖人の日(11月1日)まで毎日出発。出発地:観光局前 所要時間:45分 料金:大人 5ユーロ 子供(7~12歳) 2.5ユーロ 団体学生 2ユーロ 団体大人(30名以上) 3.5ユーロ

城砦ガイドツアー

7月・8月の月曜日と水曜日 出発時間:午後2時30分 出発地:聖ヤコブの門 所要時間:1時間30分 料金:10歳以上 3ユーロ / 10歳未満 無料